個人投資家さま向け

会社説明資料

2023年９月

百十四銀行

（東証プライム：証券コード8386）

ご説明内容

百十四銀行について

決算ハイライト

当行の成長戦略

株主還元

百十四銀行について

決算ハイライト

当行の成長戦略

株主還元

百十四銀行のプロフィール

百十四銀行

- 当行は1878年に創業し、資金量は第一地方銀行62行中、約30位に位置しています。
- 百十四グループ全体で、地域に根ざした総合金融サービスを提供しています。

会社概要

2023年6月末現在

本店所在地	香川県高松市亀井町５番地の１
創業	１８７８年１１月１日
総資産	５兆７，８４５億円
総預金	４兆７，９５８億円（譲渡性預金含む）
貸出金	３兆３，６６８億円
資本金	３７３億円
発行済株式総数	２９，１００千株
従業員数	２，２３９人（グループ全体）
店舗数	１３２店舗 （店舗内店舗・クイックスクエア含む）

グループ会社

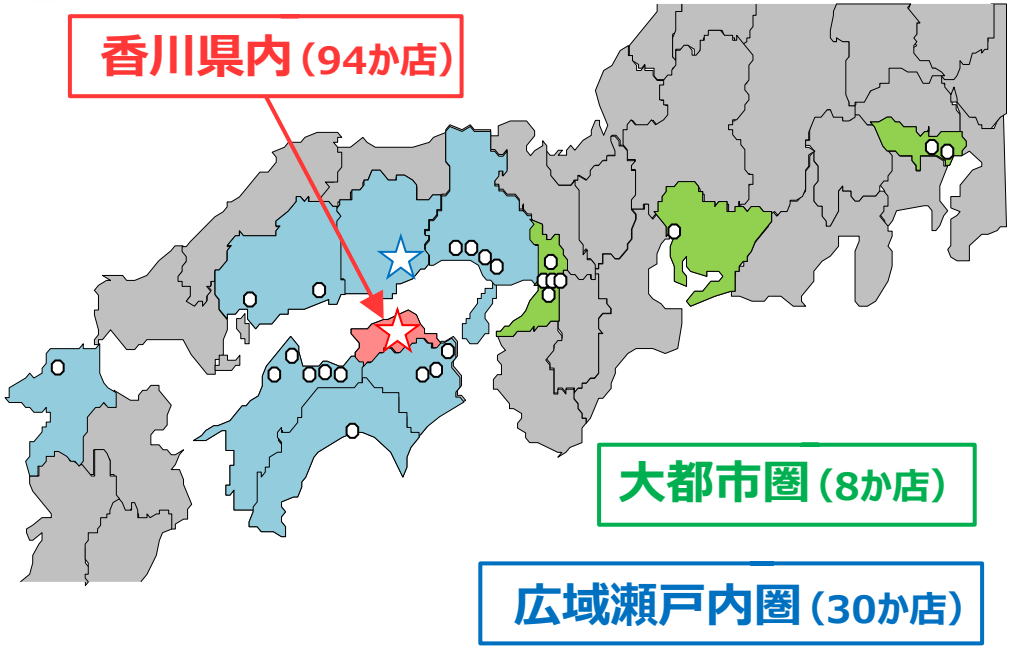
- 百十四銀行
  - 百十四リース㈱
  - 百十四総合保証㈱
  - ㈱百十四ディーシーカード
  - ㈱百十四ジェーシービーカード
  - 百十四ビジネスサービス㈱
  - ㈱百十四システムサービス
  - ㈱百十四人材センター
  - 日本橋不動産㈱

百十四銀行の店舗展開

百十四銀行

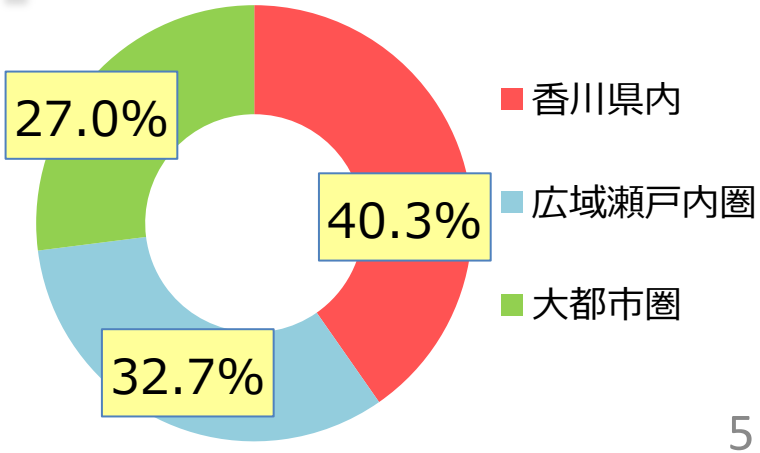
- 早くから香川県外への出店を進めてまいりました。現在、１１都府県で広域店舗展開をしております。
- 大都市圏や広域瀬戸内圏では、香川県にご縁のあるお客さまを中心とした営業展開をしております。

11都府県の広域店舗網（2023年３月末時点）



開設年	支店名
1950年	大阪支店
1952年	岡山支店
〃	東京支店
1958年	広島支店
1961年	神戸支店
1964年	名古屋支店

地域別の貸出金割合（2023年3月期）



※ 広域瀬戸内圏　[愛媛県、徳島県、高知県、岡山県、兵庫県、広島県、福岡県]
※ 大都市圏　[東京都、愛知県、大阪府]

百十四銀行について

決算ハイライト

当行の成長戦略

株主還元

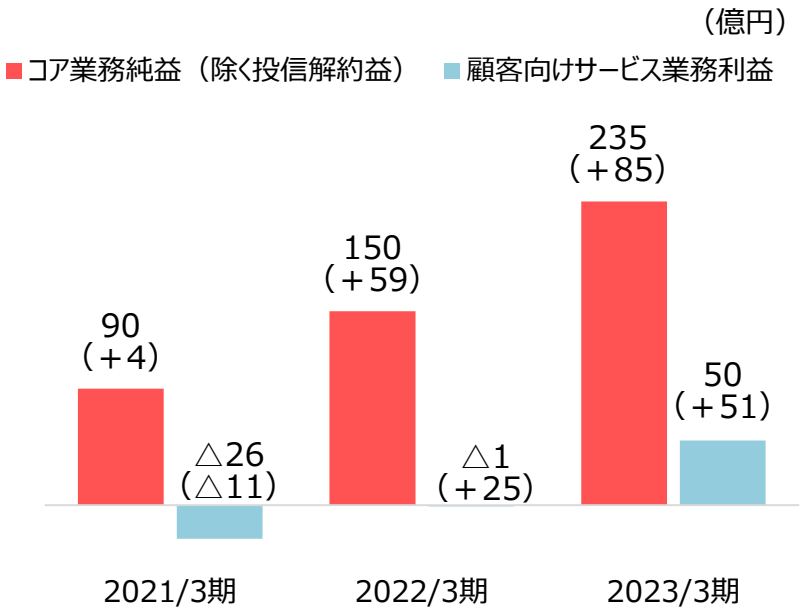
2023年3月期決算の概況

百十四銀行

- 2023年3月期決算は、コア業務純益（除く投信解約益）が外国為替売買益の増加等により、235億円（前期比＋85億円）、顧客向けサービス業務利益は50億円（前期比＋51億円）となりました。
- 親会社に帰属する当期純利益は、外国債券や投資信託などの持ち値の悪い銘柄を整理したこと等により91億円（前期比△25億円）となりました。

単体

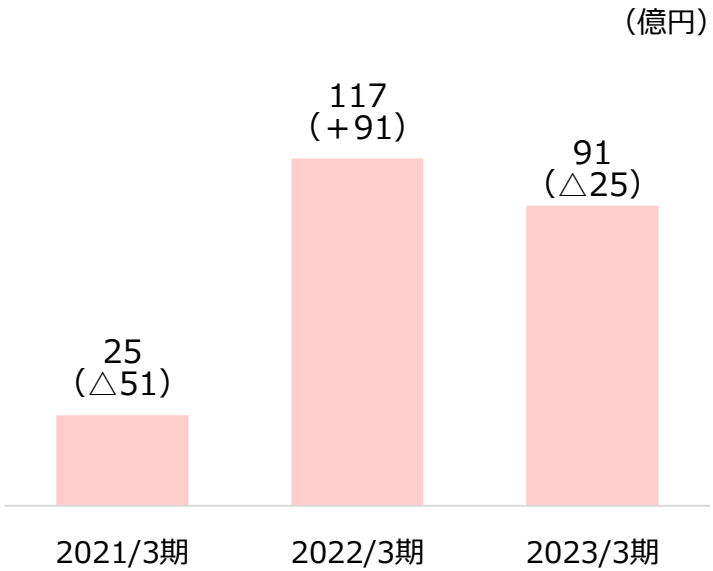
コア業務純益（除く投信解約益）及び顧客向けサービス業務利益の推移



※（ ）内は前期比増減

連結

親会社に帰属する当期純利益の推移



※（ ）内は前期比増減

コア業務純益（除く投信解約益）＝本業収益（貸出業務、為替業務等）－経費－債券売却益等

顧客向けサービス業務利益＝貸出金平残×預貸金利回り差＋役務等利益-営業経費

注力領域

百十四銀行

① 造船・船舶部品製造・シップファイナンス等の海事産業関連貸出は、瀬戸内の地場産業であり、古くより注力をしております。

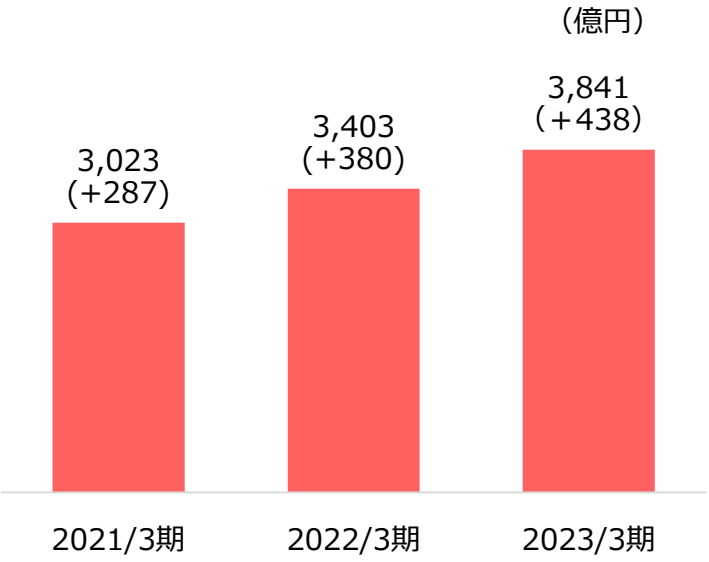
② 国際業務は、外貨決済やシップファイナンスを中心とする外貨貸出等の充実したサービスにより伝統的に強みを有しています。

海事産業関連貸出

地場産業として注力

3,841億円（2023年３月末残高）

海事産業関連貸出の推移



※（ ）内は前期比増減

国際業務

地銀トップ水準

外国為替売買益※（2023年３月期）

64億円

3位/地方銀行62行中

※ 外国為替取引に伴う収益で、主に為替予約や為替デリバティブによる収益

外貨預金（2023年３月末残高）

1,471億円

5位/地方銀行62行中

国際業務貸出（2023年３月末残高）

3,149億円

9位/地方銀行62行中

注力領域

百十四銀行

③ 法人のお客さまと経営課題を共有し、課題解決に向けたコンサルティングに注力しております。

手数料を支払っても金融機関から受けたいサービス

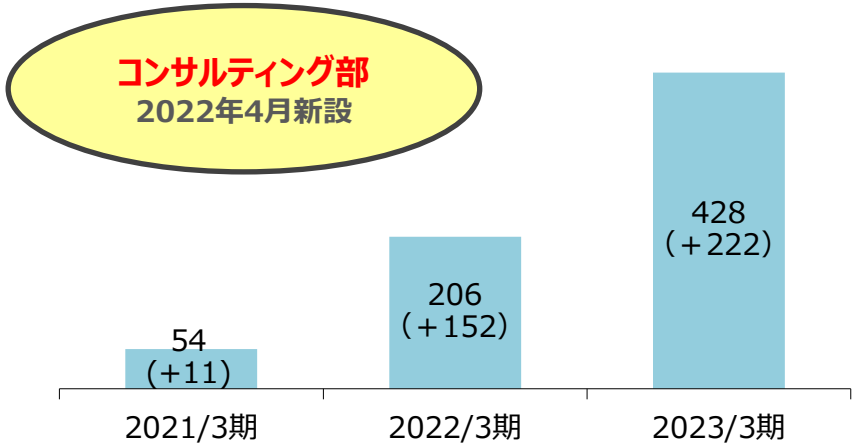
1位	経営人材の紹介	47.0%
2位	業務効率化（IT化・デジタル化）	42.7%
3位	取引先・販売先の紹介	36.7%

出典：金融庁　令和5年6月「金融仲介機能発揮に向けたプログレスレポート」

当行のコンサルティングメニュー

- 人材紹介（中核人材紹介など）
- ICTコンサル（ICT導入・業務フロー見直しなど）
- 販路開拓支援（ブランディングなど）
- ビジネスマッチング
- ⋮

有償コンサルティング取組み件数

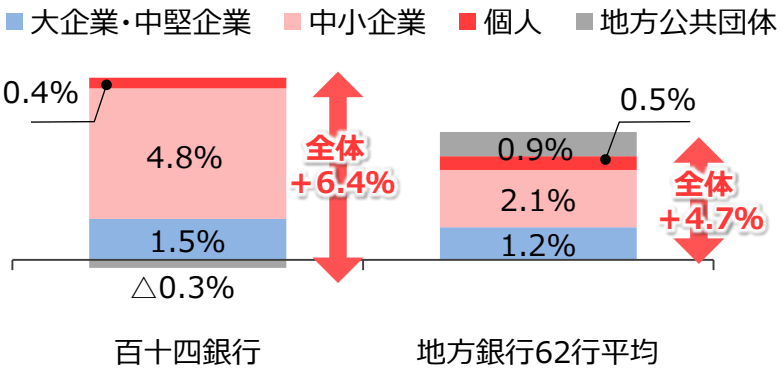


※（ ）内は前期比増減

貸出（末残）増加率(2022年３月末比)

+6.4%　13位/地方銀行62行中

（増加額＋2,019億円）



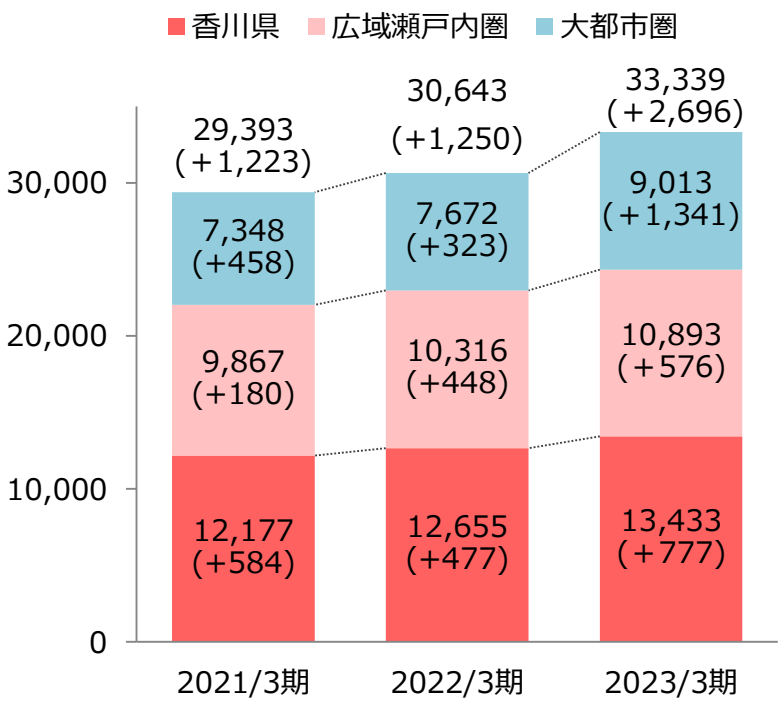
貸出金の状況

百十四銀行

- 貸出金の期中平均残高は、香川県内のほか、広域瀬戸内圏・大都市圏においても増加し、3兆3,339億円（前期比+2,696億円）となりました。

地域別の期中平均残高

（億円）

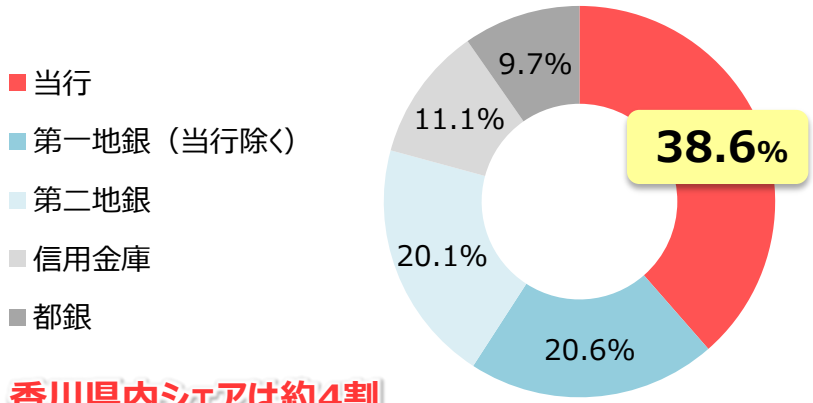


地元香川県を中心に、すべての地域において貸出金残高が増加しました

※（ ）内は前期比増減

広域瀬戸内圏 ［ 愛媛県、徳島県、高知県、岡山県、兵庫県、広島県、福岡県 ］
大都市圏 ［ 東京都、愛知県、大阪府 ］

香川県内シェア （2023年3月末）



香川県内シェアは約4割

貸出金利回り（2023年3月期）

0.98%（前期比+0.12Pt）

円貨貸出は、0.80%（前期比△0.04pt）となりましたが、シップファイナンスを中心とする外貨貸出は、金利上昇により3.25%（前期比+2.11pt）となりました。
全体では0.98%（前期比+0.12pt）へ上昇しました。
改善率では、地銀62行中5位。

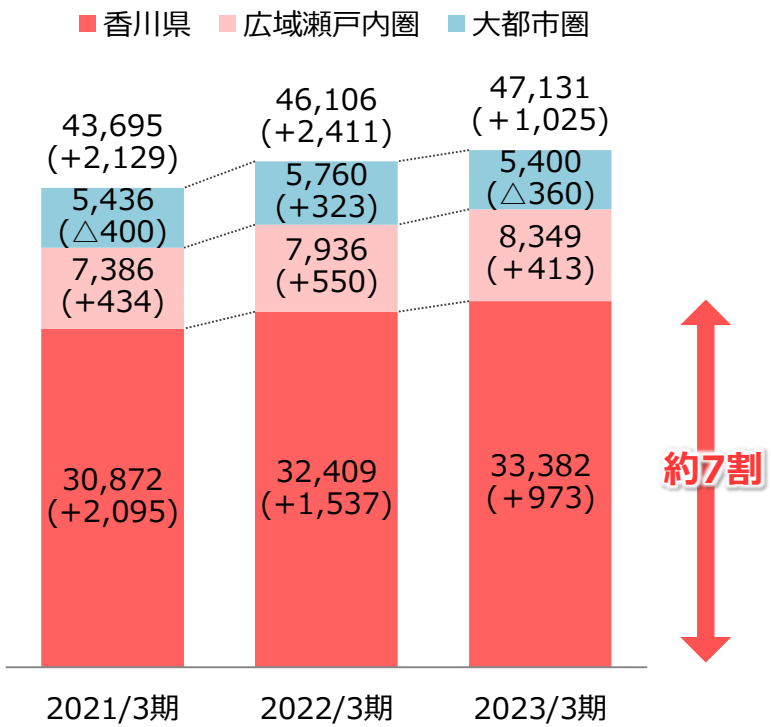
総預金の状況

百十四銀行

- 総預金の期中平均残高は、4兆7,131億円（前期比+1,025億円）となりました。

地域別の期中平均残高

（億円）



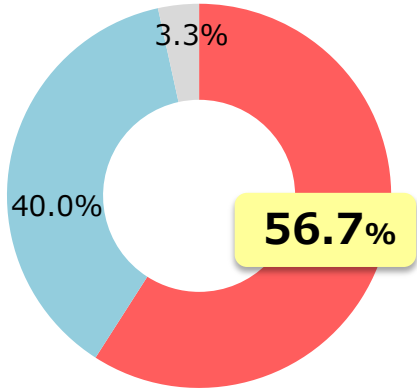
預金の約7割は香川県内が占めています

※（ ）内は前期比増減

広域瀬戸内圏 ［ 香川県を除く四国３県、岡山県、兵庫県、広島県、福岡県 ］
大都市圏 ［ 東京都、愛知県、大阪府 ］

顧客別の預金シェア

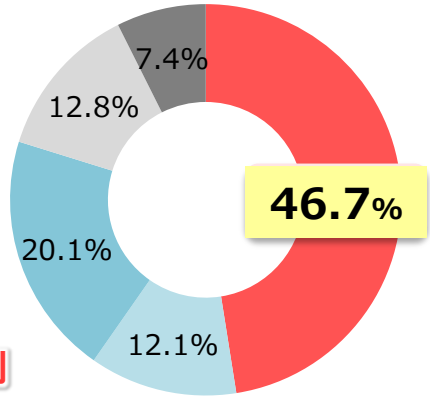
（2022年度期中平均残高ベース）



個人向けが約6割

業態別の香川県内シェア

（2023年3月末時点）



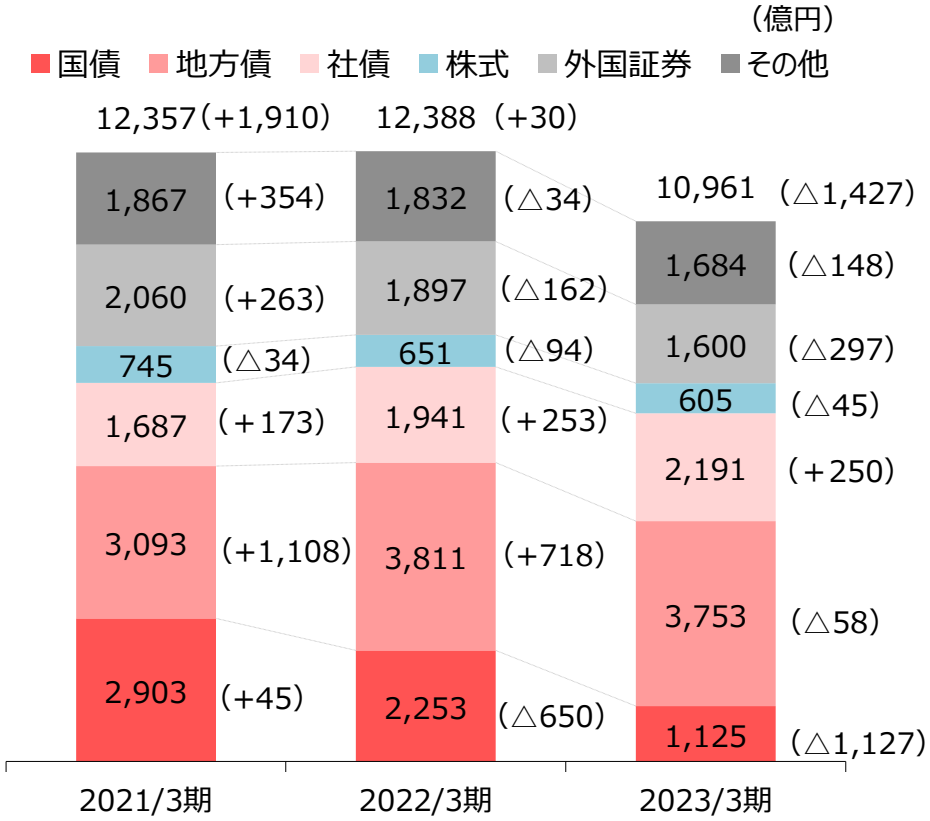
香川県内シェアは約5割

有価証券運用の状況

百十四銀行

- 債券、外国証券、投資信託等の持ち値の悪い銘柄を整理し、有価証券（平均残高）は1兆961億円（前期比△1,427億円）となりました。
- 日米金利の上昇等により、円債や外国証券等では評価損がありますが、株式の評価益を549億円有しているため、有価証券全体では205億円の評価益となっております。

有価証券（平均残高）の推移

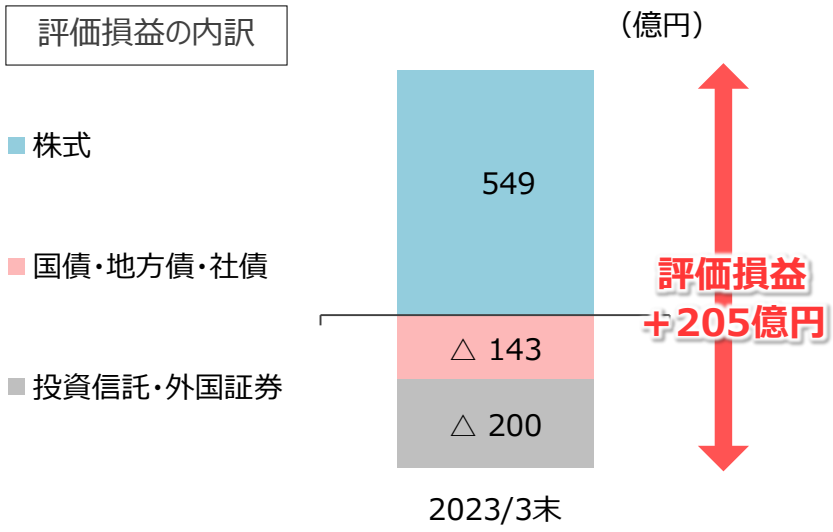


※（ ）内は前期比増減

有価証券評価損益

有価証券評価益（2023年３月末）

205億円　17位/地方銀行62行中



参考）2023年6月末時点

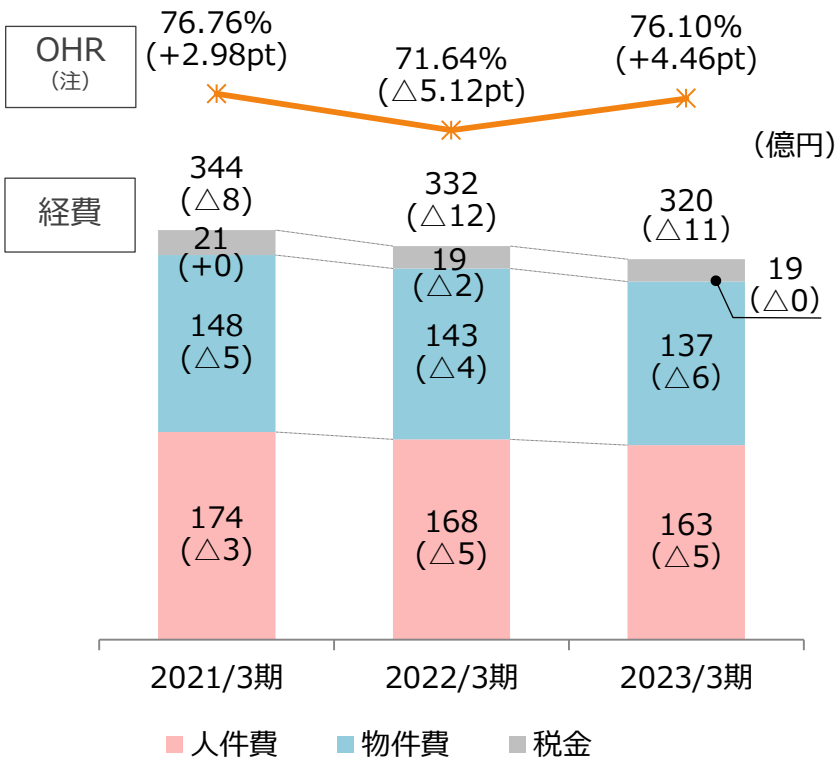
評価損益+382億円

経費・OHR等の状況

百十四銀行

- 経費は前期比△11億円と削減が進みましたが、債券関係損益が126億円減少したことにより、OHRは上昇しました。
- 実質拠点数や従業員数は減少しておりますが、従業員1人あたりの預金及び貸出金は増加しています。

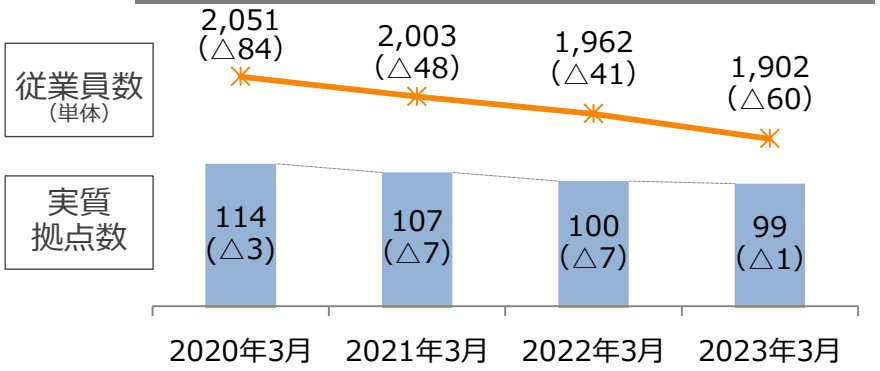
経費・OHRの推移



※（ ）内は前期比増減

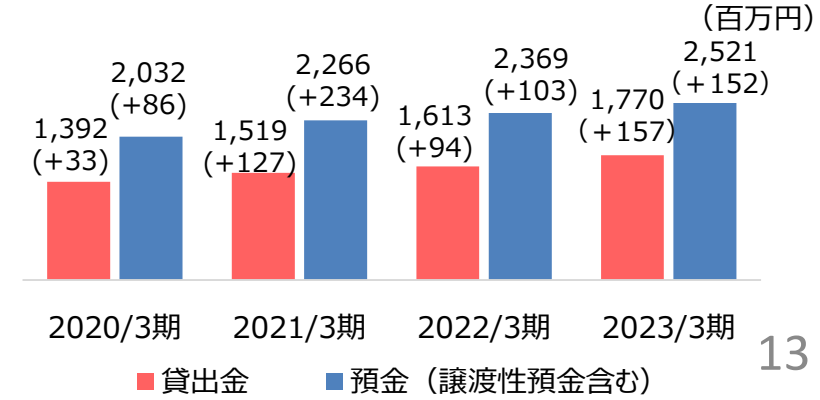
(注）OHR＝経費÷（コア業務粗利益＋債券関係損益）

実質拠点数・従業員数（単体）の推移



※クイックスクエア・振込支店を含む、店舗内店舗含まず

従業員1人あたりの預金・貸出金



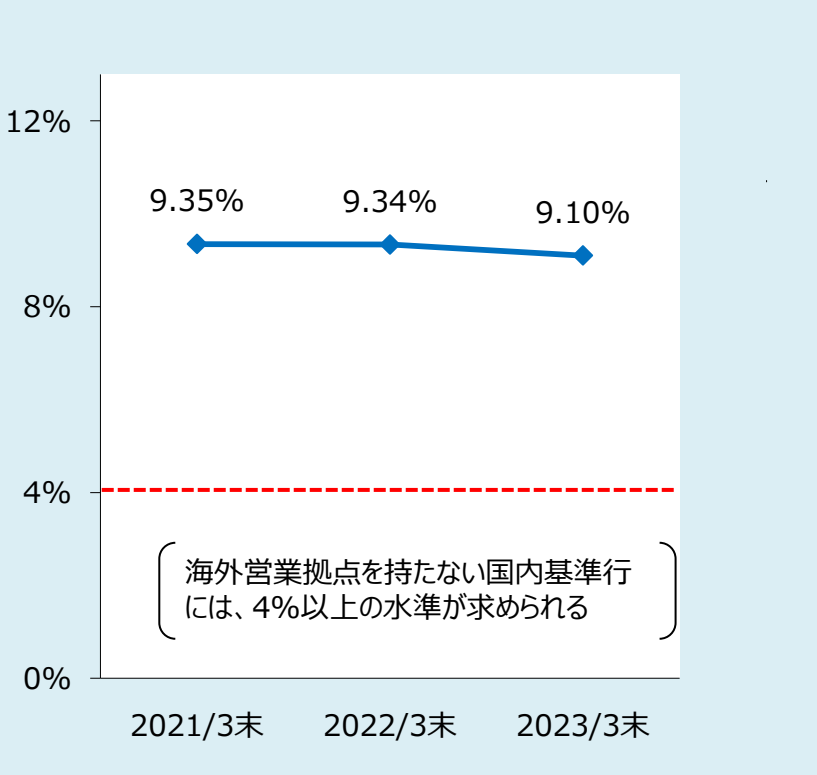
経営の健全性

百十四銀行

- 当行の自己資本比率は、国内基準行に求められる水準を十分に上回り推移しています。
- 複数の外部格付機関よりA格を取得しており、経営の健全性は高く評価されています。

連結

自己資本比率の状況（国内基準）



☞求められる水準以上の健全性を確保

外部機関による格付

日本格付研究所（JCR）	格付投資情報センター（R&I）
長期発行体格付	発行体格付
A	A–

（2023年8月現在）

☞引き続き高い信用力を維持

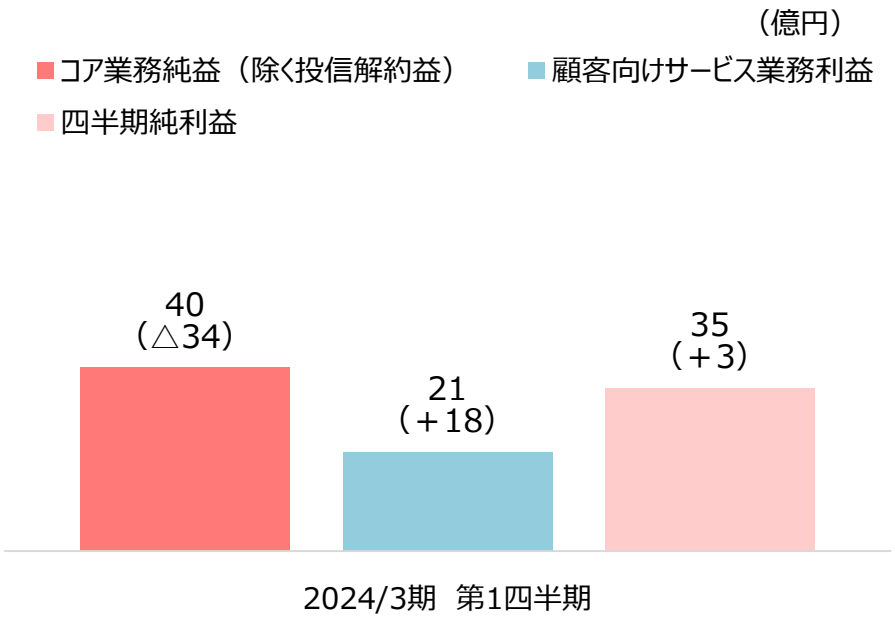
2024年3月期決算の見通し

百十四銀行

- 第１四半期のコア業務純益（除く投信解約損益）は、外国為替売買益の減少などにより40億円（前期比△34億円）となりました。四半期純利益は、債券関係損益の改善などにより、35億円と（前期比＋3億円）なりました。
- 通期の経常収益は750億円、親会社に帰属する当期純利益は、原材料高や円安などにより依然不透明であり、65億円を予想しています。

単体

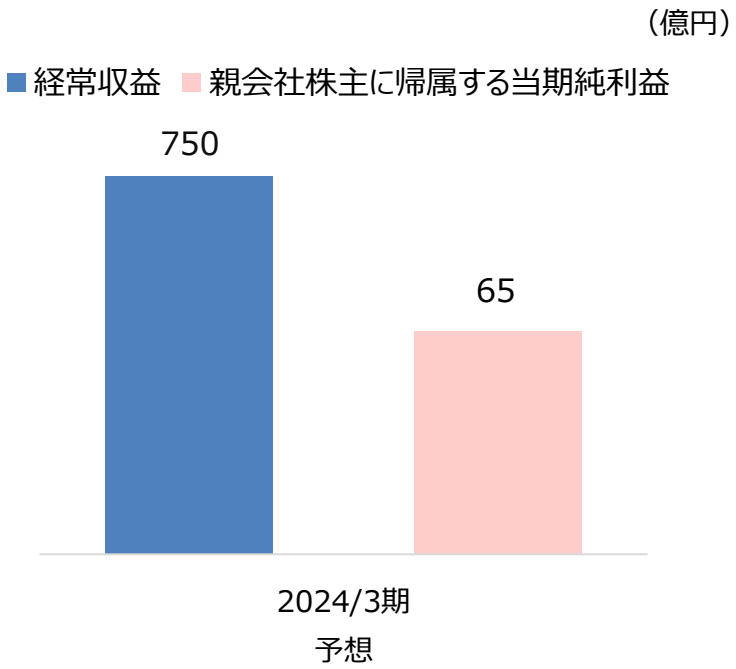
第1四半期の業績



※（ ）内は前期比増減

連結

通期決算見通し



コア業務純益（除く投信解約益）＝本業収益（貸出業務、為替業務等）－経費－債券売却益等

顧客向けサービス業務利益＝貸出金平残×預貸金利回り差＋役務等利益－営業経費

百十四銀行について

決算ハイライト

当行の成長戦略

株主還元

中期経営計画

百十四銀行

- お客さま・地域から「百十四いいよ！」と言っていただけるような付加価値の高いサービスを提供していくことで、“地域のみんな“がウェルビーイングを実感できる「いい世の中」の実現と、百十四グループの経営のサステナビリティ向上をめざします。

中期経営計画　「創ろう[1]イ・[1]イ・[4]ヨ♪」（2023年4月～2026年3月）

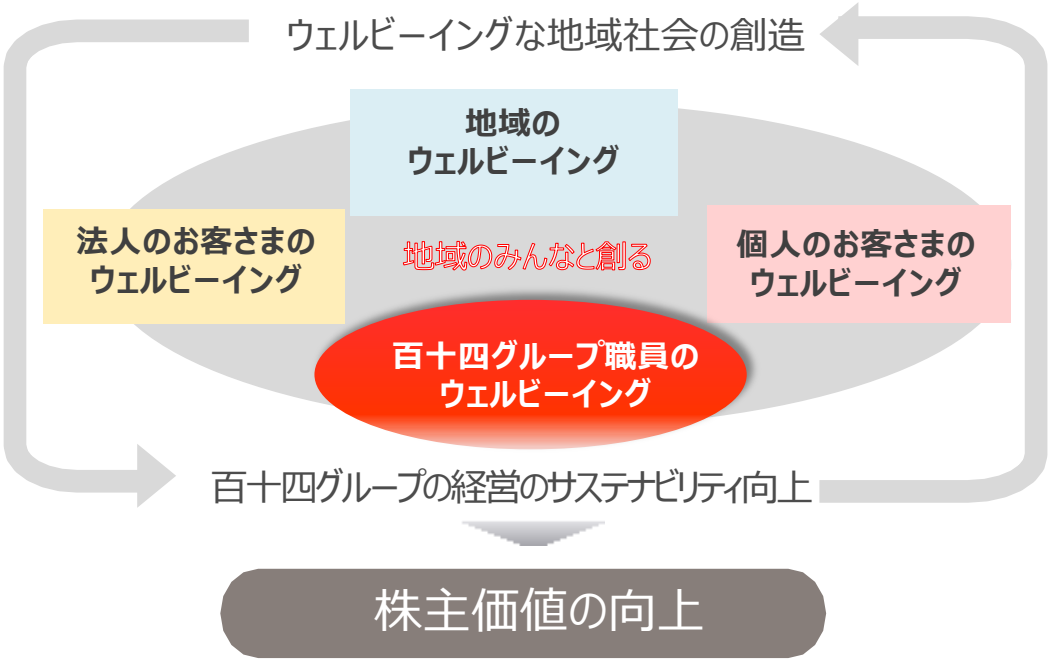
■重点戦略

1．総合コンサルティンググループの進化

2．職員のウェルビーイング向上

3．生産性の飛躍的向上

4．持続可能な経営基盤の構築



■経営目標（2026年3月期）

収益性	連結	当期純利益	85億円以上
健全性	連結	自己資本比率	9.0%程度
効率性	単体	OHR（業務粗利益ベース）	70%程度

地域共創への取組み

百十四銀行

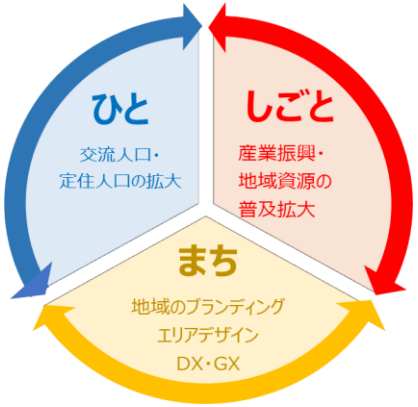
- 地方公共団体等との共創体制を構築し、「ひと」と「しごと」の好循環を支える「まち」の活性化に取り組んでいます。
- 地域課題の解決に自ら取り組み、地域と百十四グループの持続的成長を実現します。

地域のDX・環境対策（GX）

人口減少・少子高齢化・教育

地域資源ブランド化

まちづくり



産業振興

観光振興

農業振興

▲屋島山上おみやげプロジェクト

屋島山上を楽しむ新たなコンテンツを企画に取り組みました。食べ歩きをテーマとし、当行のお取引先さまと共同で、やしまのかまぼこ「やしかま」を開発しました。

当初想定を上回り、**販売期間を延長**

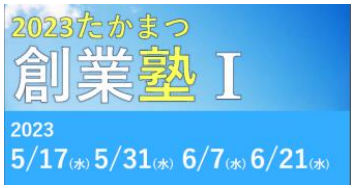
☞**地域資源のブランド化を支援**

▲かがわPPP/PFI地域プラットフォーム

地方公共団体が保有する公共施設を民間が活用することにより、地域の活性化を支援しています。当行と地方公共団体など官民が連携し、企画を実施しております。

高松市立中央公園に地元洋菓子店が**カフェ**を出店予定

☞**官民協力によるにぎわい創出を後押し**



▲創業支援による産業振興

地方公共団体などで創業支援をしています。当行から講師を派遣し、金融面に留まらず、創業前の情報収集や計画策定のサポートを行っております。

2022年度は**県下5か所**で開催

☞**創業前から伴走した支援**

法人のお客さまの課題解決への取組み

百十四銀行

- 法人のお客さまの様々な課題を解決するために、コンサルティング業務に取り組んでいます。
- 課題解決力強化により、金融・非金融の両面でお取引のメイン化を図ります。

経営・再生
- ✓ 事業計画策定支援
- ✓ 販路開拓支援
- ✓ SDGs取組支援 など

事業承継
- ✓ M&A
- ✓ 次世代への事業承継
  など

ICT
- ✓ ICT導入
- ✓ 業務フローの見直し
- ✓ 業務効率化　など

人事
- ✓ 人事制度コンサルティング
- ✓ 人材紹介業務
  など

海外支援
- ✓ 海外進出支援
- ✓ 資金調達支援
  など

☞その他の分野でも
課題にあわせた
様々なサービスをご提案

▌海外進出支援コンサル

2023年秋にベトナムのホーチミン市に現地法人を設立予定。現地での情報収集・ビジネスマッチングに加え、現地進出後の支援まで一貫した対応を行います。

- 海外の市場調査をしたい！
- 自社商品・製品を海外販売したい！
- 海外の現地法人を設立したい！

国内サポート×海外サポート
により
お客さまの事業にあわせた伴走支援を実施

▌人事制度コンサル

それぞれの会社の課題に応じた人事制度をオーダーメイドでご提案。制度の導入後も従業員への周知・浸透についてのアフターフォローを実施しています。

社内規定の分析 → 課題の把握 → 制度設計 → 導入 → 運用定着化

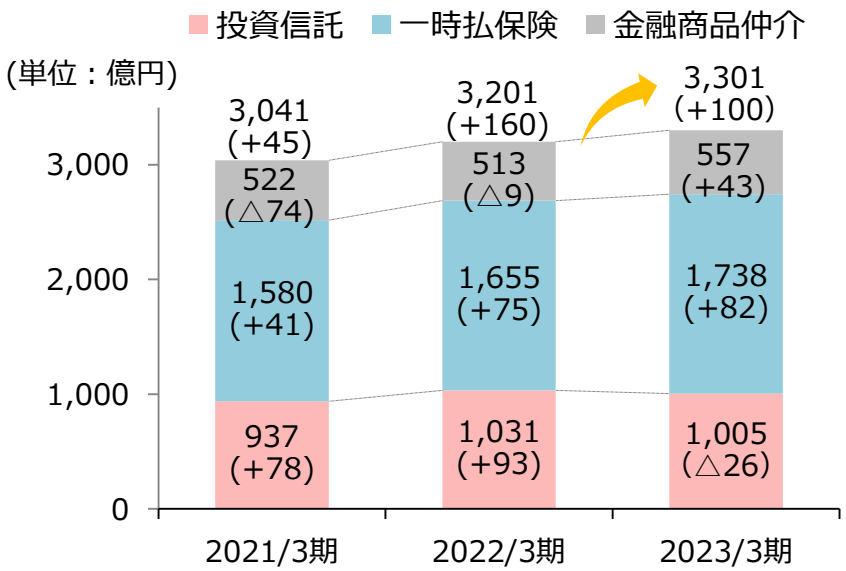
透明性のある給与体系や評価基準を明確化することで従業員の**やる気向上**につながります。

個人のお客さまの課題解決への取組み

百十四銀行

- **人生100年時代におけるお客さまのさまざまなニーズを長くサポートし、生涯価値（ライフタイムバリュー）の向上につなげるコンサルティングを実践しています。**

預り資産残高



※（ ）内は前期比増減

資産形成層との接点拡大

- 住宅ローン申込のWEB完結化や114バンキングアプリのサービス拡充など利便性向上
- アプリを利用されるお客さまのデータを利活用したデータベースマーケティングの実践

非対面チャネルを接点にリアルチャネルとの融合を図り、コンサルティングにつなげる

長寿社会への取組み強化

- 民事信託簡易パッケージ「託して安心」

ご自身が元気なうちに資産の管理・処分を託すことで、本人が認知症になった時に、信託契約の目的に沿って財産管理をスムーズに行うサービスを開始。

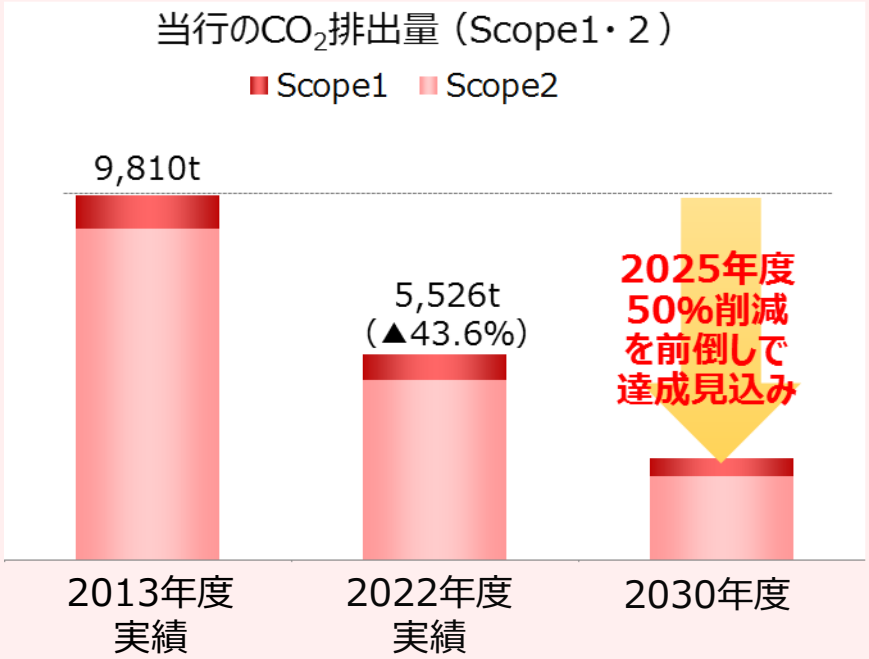
気候変動等、環境課題への取組み

百十四銀行

- **持続可能な地球環境や社会の実現に向けた取組みを行っております。**

CO2排出量の削減状況

2022年度のCO_2排出量（Scope1及びScope2）削減は、2013年度比で43.6%減少しました。
2025年度に50%削減（2013年度比）達成見込みです。



所有資産の有効活用を通じたCO2削減

当行保養所の跡地に、太陽光発電設備を建設。発電した電力全量を自己消費することにより、CO_2排出量を削減します。「自己活用スキーム（※）」を活用したCO_2削減に向けた取組みは、四国島内では初の試みです。

「エネルギー利用環境負荷低減事業適応計画」の認定を受けました。

⇒銀行業では国内初

2023年3月稼働開始

※発電電力と消費電力の相対取引(自己消費)と発電量相当分の非FIT非化石証書（一般社団法人日本卸電力取引所（JEPX）が、大型水力や非FIT期間が終了した電源で発電したことを証する書）によるCO2排出量を削減

3支店・1出張所を統合し、木太支店を新築移転予定です。CO_2排出量を実質ゼロとする『ZEB』（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）となります。

☆同規模の建物と比較し、各種設備で消費エネルギーの53%を「省エネ」
☆同規模の建物で消費するエネルギーの59%を太陽光発電により「創エネ」

新築開店2023年11月予定
新木太支店（建物名称：高松東営業部）

サステナビリティ向上への取組み

百十四銀行

● 地域や当行自身の持続可能性向上につながる施策へ積極的に取り組んでいます。

地域との協業

■移住・定住促進と脱炭素連携

✓ 坂出市と「移住・定住促進や脱炭素における連携」の覚書を締結しました。第一弾として、坂出市はZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）の取得者に対し補助金を交付。当行は融資手数料を割り引く住宅ローンのプランを提供します。

地域の脱炭素化と移住定住へ住宅ローンを通じ支援

■金融教育活動

✓ 成年年齢引き下げも踏まえ、ライフステージに応じた生活設計や金融トラブル防止のため、四国財務局と共同で香川県下の高等学校で「金融教育授業」を開催しています。

香川県内高等学校での金融教育授業

- 地域の将来世代及び教職員対象に取組みを拡大
- 映像教材とSNS等を活用した取組みを予定

多様な人材が活躍・成長できる環境の整備

■性別によることなく活躍ができる職場環境

女性管理職比率 **26.6%**（2023年3月期実績）

2026年度末 30%以上を目標

男性の育児休業等取得率 **100%**（2023年3月期実績）

■職員の成長を促す副業制度の導入

✓ 主体的なキャリア形成や能力開発を支援するため、「副業制度」を導入。副業を通じて得た知識・スキル・人脈を地域貢献や百十四グループの企業価値向上へつなげます。

地域創生に取り組む傍ら映画を製作
映像を通じて地域の魅力を発信

神職の資格を活かした副業で地域に貢献

■中途退職者の再雇用への環境整備

✓ キャリアアップ等を理由として中途退職した行員についての再雇用制度を整備しました。専門性や経験を活かした組織活性化を図ります。

百十四銀行について

決算ハイライト

当行の成長戦略

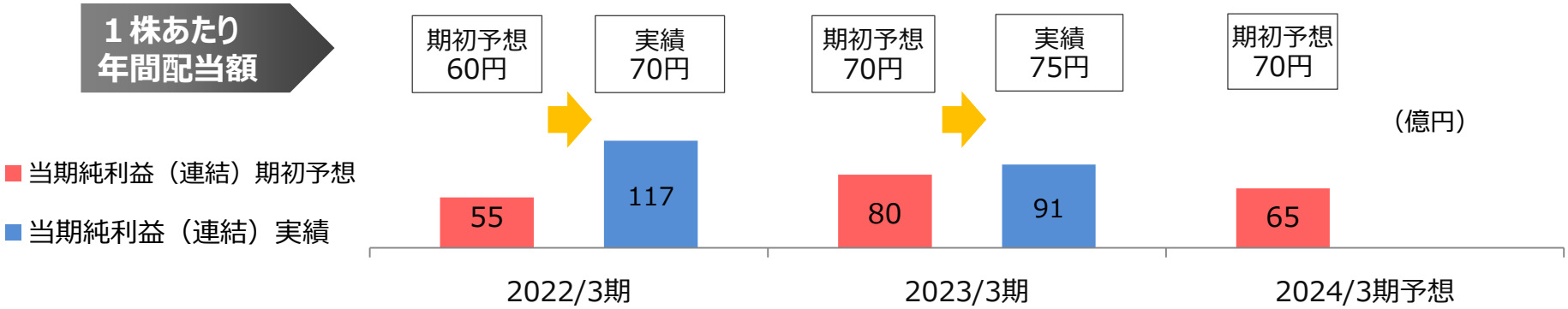
株主還元

配当実績及び見通し

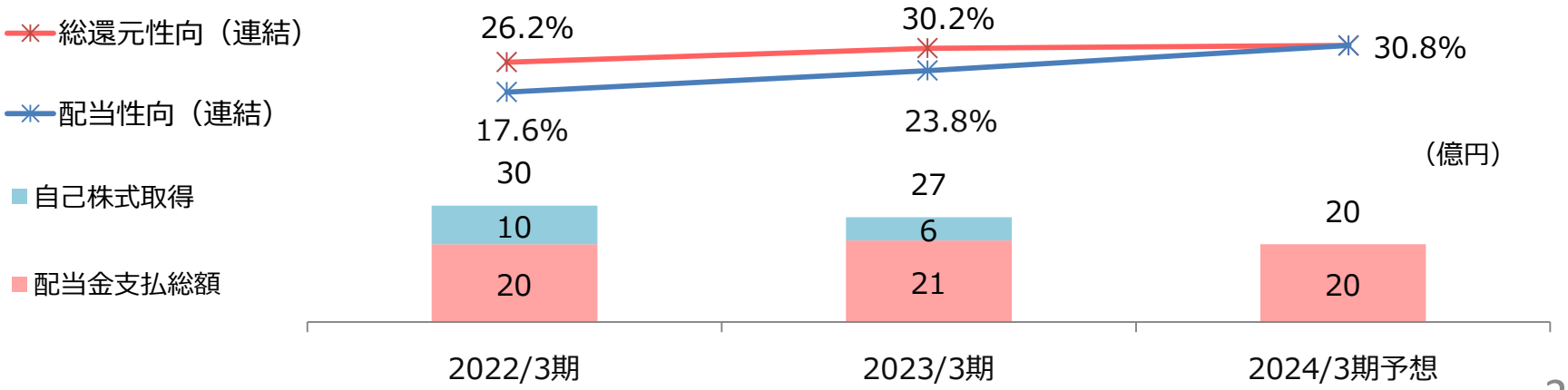
百十四銀行

- 配当については、安定的な利益還元に配慮しつつ、内部留保の充実度合い、利益の状況及び経営環境等を総合的に考慮した上で実施しています。
- 2024年3月期は、１株あたり年間70円の配当を予想しています。

1株あたり年間配当額と当期純利益（連結）の推移



株主還元の推移



2024年3月期予想は、2023年8月に取得完了した自己株式取得を勘案した株数にて記載しております。

株主優待制度

百十四銀行

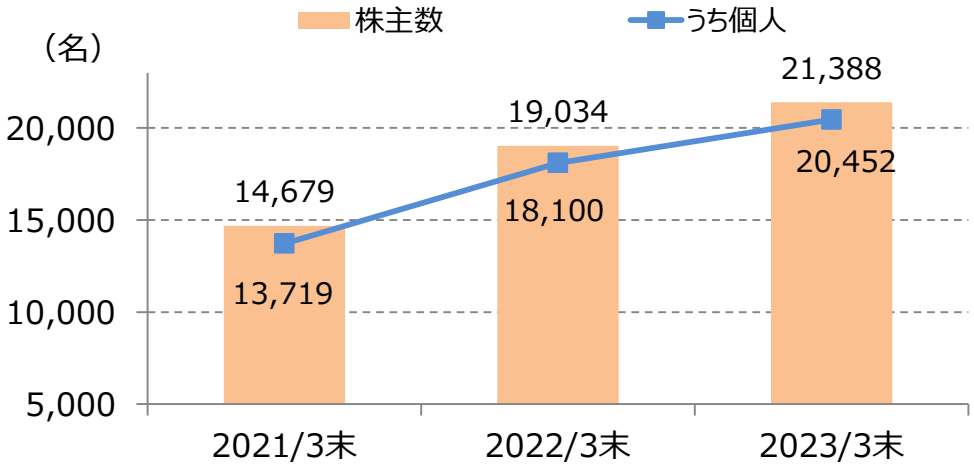
- **株主さまへの還元の一環として、株主優待制度をご用意しております。**
- **地元香川県の特産品等を掲載したカタログから、お好みの品物をお選びいただけます。**

対象となる株主さま	3月末現在で100株以上を1年以上継続保有（※）いただいている株主さま	
概要 （保有株数に応じて専用カタログを送付）	保有株数100株以上500株未満	2,500円相当の香川県産品
	保有株数500株以上	5,000円相当の香川県産品

（※）1年以上継続保有とは、基準日（3月末日）とその前年の3月末日及び9月末日の株主名簿に同一株主番号で100株以上の保有記録が連続して記載、または記録されていることとします。

単元株主数の推移

当行の株式は個人の株主さまを中心にお持ちいただき、個人の株主さまの数は増加しております。



株主優待品

「香川県」の魅力を感じていただける食品や工芸品やSDGｓの趣旨に沿った「寄付コース」もご用意しております。

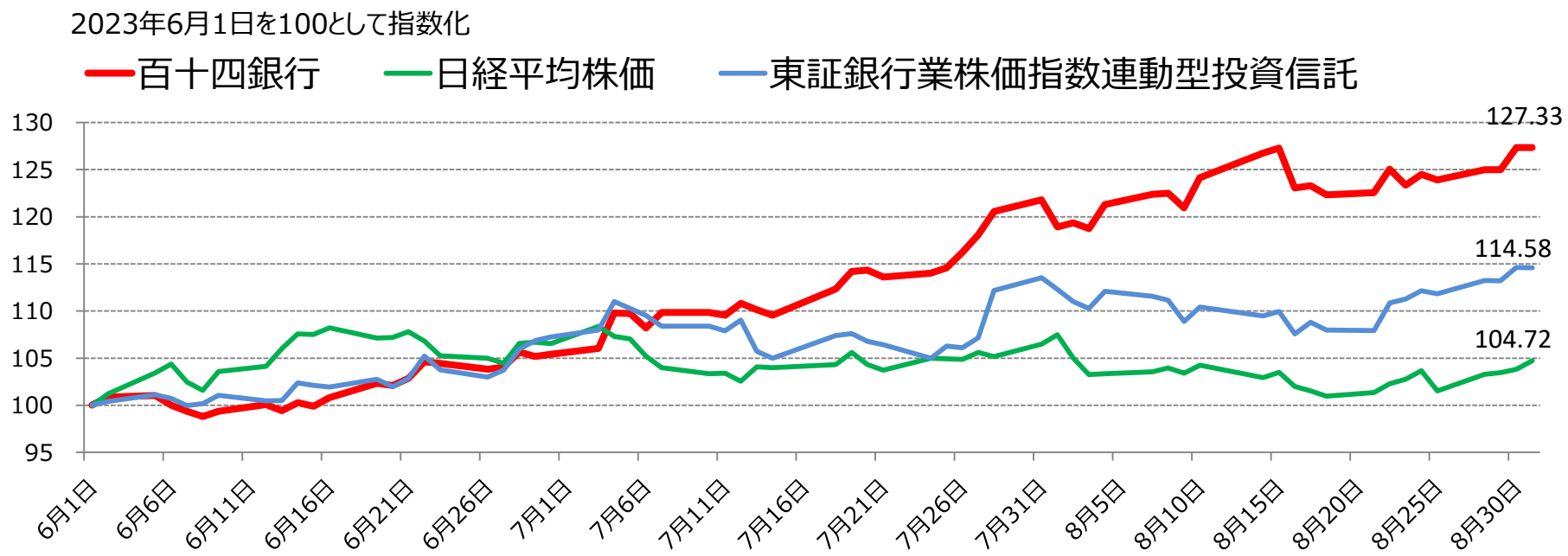
四国遍路世界遺産登録推進協議会

香川県子どもの未来応援ネットワーク

株価の推移

百十四銀行

株価の推移（2023年6月1日から2023年8月31日）



主な株式指標

株価	2,236円
売買単位	100株
PER（株価収益率）	7.09倍
PBR（株価純資産倍率）	0.23倍

株価は、2023年8月31日終値
PER＝株価（2023年8月31日終値）/1株当たり利益（2023年3月期）
PBR＝株価（2023年8月31日終値）/1株当たり純資産（2023年3月期）

配当利回り

当行	プライム市場平均	プライム市場 銀行業平均
3.27%※1	2.24%※2	3.17%※3

※１）1株あたり配当金予想70円/株価2,139円（2023年7月31日終値）
※２）「日本取引所グループ」（2023年7月　プライム加重平均利回り）
※３）「日本取引所グループ」（2023年7月　業種別上場株式平均利回り）

本日は、ありがとうございました。

百十四銀行

本説明資料やＩＲ全般に関するご意見・ご感想・お問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社百十四銀行　経営企画部 経営企画グループ

電　　話	０８７（８３６）２７８７
ＦＡＸ	０８７（８３６）３６７７
Ｅ－ｍａｉｌ	keiki.kikaku@114bank.co.jp
ＨＰｱﾄﾞﾚｽ	https://www.114bank.co.jp/

◆ 事前に百十四銀行の許可を得ることなく、本資料を転写・複製し、または第三者に配布することを禁止いたします。

◆ 本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

◆ 本資料に記載された事項の全部または一部は予告なく修正または変更されることがあります。

◆ なお、本資料に含まれている将来の業績に係る記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、将来の業績は経営環境の変化等の様々な要因により変動する可能性がありますことにご留意ください。